

第10回 児童虐待対応における司法関与及び 特別養子縁組制度の利用促進の在り方に関する検討会	資料4
平成29年1月16日	

ヒアリング対象者提出資料

社会福祉法人 子どもの虐待防止センター
岡崎 京子氏 提出資料…………… 1

社会福祉法人 子どもの虐待防止センター
相談員・評議委員 岡崎 京子

社会福祉法人子どもの虐待防止センターでは、宇都宮で養育里親が里子を殺してしまうという事件を契機に2003年から里親・養親支援事業として「里親・養親サロン」を始めました。その後各地で里親サロンが開催されるようになり、最近では支援の少ない特別養子縁組の方を対象とした研修と話し合いの場として「養親サロン」を28年度は6回開催します。その他に「愛着関係の修復プログラム」や専門家による個別の「発達相談や心理相談」もあります。

8年前からは養育里親や養子縁組家庭や里親支援者が地域に関係なく自由に集まり学び話し合える場として「橋本里親サロン」や「志希の集い」も開催し支援しています。

現状

今「特別養子縁組」の法整備が検討されていますが、未整備のまま民間斡旋団体からの紹介で乳児の特別養子縁組が急増し、様々な養育困難や問題が生じ早急な対応が求められています。

◎交流期間が殆どなく紹介があると断れないので、突然始まる乳児養育に戸惑いが大きい訪問や相談や研修の機会がない。

(登録時に乳児養育の基本的な知識や地域の子育て支援の利用などの研修が必要、乳児院や地域の保健センターでの研修が望ましい)

◎出産前に養子縁組契約をする事が多く、乳児に明らかな身体的障害があった場合の養親の気持ちの動揺や変化への対応が出来ていない。

(養親がどうしても受け入れられない場合の子どもの措置は、民間では出来ないのでは・・・乳児院での受け入れは可能か・・・)

◎多くの民間斡旋団体は、登録前の審査が簡単で研修もほとんどなく養親の心身の問題が見過ごされ養育困難が生じている家庭もある。

(子育ては養親自身の親子関係が大きく影響する、なぜ養子希望なのかを精査してほしい。特に不妊治療の挫折感の穴埋めという期待や緊張感が大きく、子育てに成果を求めすぎる傾向がある)

◎経費は実母の生活費や出産費用など200万円位が全額養親負担となる。

(出産費用の無料化が必要では・・・)

◎生母の心身の健康状態、出産への葛藤、DVなどの影響でハイリスクな子どもが多く知的、発達、精神障害などで養育困難な家庭が増えている。

(2歳以降に顕著になる様々な障害の発生確率は大きく、養親の精神的な動揺や葛藤を受け止め、具体的な支援に繋ぐ専門支援機関が早急に必要)

- ◎真実告知は子ども自身が「見捨てられ体験」を整理し自分史を受け入れる必要があるが養親への研修の機会がなく、子どもの気持ちが見過ごされて思春期になり養親子の大きな葛藤となっている。
(不登校、引きこもり、家庭内暴力、家出など)
(また乳児からの子育てでは、告知をしないという養親が増えているが、子どもの知る権利など、なぜ必要かが伝えられていない)
- ◎各民間団体の方針として産んだ人との交流が行われ良い成果もあるが、再度見捨てられ体験の怒りが出て、丁寧な支援がないまま養親子の愛着形成や自立の重大な障害となっている例もある。
(子どもの性格や家庭の事情などで大きく異なり、斡旋団体は慎重で責任ある対応と支援が、養親子に対して長期的に必要)
- ◎実子扱いなので一般的な子育て支援しかなく養育困難に加え、孤立や「縁組への後悔」など養親の精神的葛藤が見過ごされ子育てに大きく影響している
(各県や市の里親会の加入を促進し、先輩里親との交流や研修への参加や地域の支援に結び付けることが必要)
- ◎児童相談所は民間団体斡旋希望の養親の登録前研修やサロンへの参加を認めないところもあり、特別養子縁組の促進と子どもの福祉の観点から早急に改善が必要。

今後に望むこと

乳児を遺棄や虐待死から救う為に、愛情あふれる養親につなぐ「特別養子縁組」は増えて欲しいと願う一方で、余りにも支援体制が未整備である為に孤立し追いつめられ養育困難や虐待さえ起きかねない現状があります。早急に「特別養子縁組」独自の登録前後の研修を充実し「子どもの為の福祉制度」という事を理解してもらう事が必要であると共に、孤立しがちな養親の仲間作りや話せる場が求められています。

- ◎しかし数人規模の民間斡旋団体に研修や相談、支援を任せるのは無理があり児童相談所で担うのも人的に無理で、マッチングとは別の支援専門機関(子どもの療育相談も含む)の設立が早急に必要。
(養育困難な状況を把握していない事が、さらに安易な斡旋に繋がっている)

- ◎官民間問わず、斡旋後の現状把握と担当者への研修が早急に必要。

養子として素敵に育った若者達は異口同音に「今が充実していれば、出自など関係ない」と語り、そして養親は「苦労もあったけれど子どもを育てる幸せを味わう事が出来た」と話して下さいます。

そんな養親子が増えることを願って、子どもの虐待防止センターでは相談や支援のモデルを作り全国に発信したいと試行錯誤しながら取り組んでいるところです。